

ごあいさつ

厚生労働副大臣 山本 香苗



皆さん、おはようございます。本日は、「子どもの虐待防止推進全国フォーラム in わかやま」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

開会に当たりまして、主催者を代表して、一言ご挨拶を申し上げたいと存じます。

厚生労働省では、毎年11月を「児童虐待防止推進月間」と位置づけ、児童虐待の防止を社会全体で進められるよう、さまざま広報・啓発の取り組みを行っております。

本フォーラムはその一環としまして、国民お一人お一人が児童虐待問題に対する理解を深め、主体的にかかわりを持っていただくことを目的といたしまして、平成17年度から各地で開催しております。今年度はここ和歌山市で開催させていただくことになりました。

児童虐待については全国の児童相談所におけます対応件数は年々増加しております。平成25年度におきましては、速報値で7万3,765件と過去最高を更新しました。また、虐待による死亡事例も依然として年間100件前後で推移するなど、憂慮すべき状態が続いております。

こうした現状を踏まえまして、世耕内閣官房副長官を議長といたします児童虐待防止対策に関する副大臣等会議を開催しております。総務省、法務省、文部科学省、警察庁、そして私ども厚生労働省といった関係省庁が連携して、現在、検討を進めさせていただいております。さらに、厚生労働省におきましても、今年9月に社会保障審議会のもとに新たに専門委員会を設置いたしまして、妊娠期からの切れ目ない支援の実施などの5項目について、実効ある児童虐待防止対策の構築に向けて、現在、検討を鋭意進めさせていただいているところでございます。

なお、先般、乳幼児健康診査を受診しないなど、行政との接点がなく、その居住実態が把握できない児童についての調査結果を取りまとめさせていただきました。実態が把握できない児童の確認に当たりましては、まずは市町村内、特に母子保健や児童福祉部門、教育委員会や住民基本台帳部門での連携が極めて重要です。そしてまた、市町村間での情報共有も極めて重要でございまして、日頃からこうした関係部署間での連携が児童虐待の防止にもつながっております。本日は、市町村でご担当の方も多数ご参加いただいていると伺っておりますが、この場をお借りいたしまして、より一層のご尽力をお願い申し上げたいと存じます。

さて、本日のフォーラムは、「今、わたしたちができること—こどもの未来が輝くために—」という

.....

のがテーマとなっております。最も愛されるべき家族から虐待を受けるという事態は、子どもの人権を著しく侵害し、心身の健やかな成長に重大な影響を与えるものであります。このような状況から子どもたちを守るため、社会全体として取り組む必要があると考えております。

また、本日お集りの皆様の中には、それぞれのお立場で子どもや子育て、そして子育て家庭と身近に接して、子どもやその保護者の支援に取り組んでいただいている方々も多くご参加いただいていると伺っております。

本日は、和歌山県にゆかりのあります田中章二さん・田中理恵さん親子の講演や対談のほか、児童虐待を防止する上で大変重要な地域での子育て支援の取り組みについてのシンポジウムが予定をされております。

このフォーラムが子どもの虐待を防止するため、一人一人が自分にできることを考える重要な機会となって、また全ての子どもが健やかに成長していける子どもの未来が輝く社会の実現に向け、力強いメッセージを発信する場となることを心から期待しております。

最後になりましたが、本日ご参加の皆様のご健勝をご祈念申し上げますとともに、フォーラムの開催にご尽力をいただきました和歌山県及び和歌山市の関係者の皆様方に改めて感謝を申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

和歌山県副知事 下 宏



皆さん、おはようございます。和歌山県副知事の下と申します。

本日は、県内外から多くの皆様をお迎えして、この全国フォーラムを開催できますことを、私も大変うれしく思っております。

今、ご挨拶をいただきました山本副大臣には大変ご多忙の中を、本日、わざわざご臨席をいただきまして、改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

少し和歌山県の児童虐待の取り組みについてご紹介をさせていただいて、ご挨拶にかえさせていただきたいと思っております。

本県の児童虐待に関する相談件数につきましては、毎年増え続けてございまして、こうした状況に迅速に対応するという中で、平成23年度から児童相談所に緊急対応職員を配置するとともに、翌年度に虐待対応課を設置いたしまして、体制の強化を図っております。また、児童虐待の未然防止をするということで、和歌山県子どもを虐待から守る条例に基づき、基本計画を定めまして、虐待防止を総合的かつ計画的に推進するための施策を展開しているところです。ただ、残念なことではございますが、昨年、2歳の男の子が、父親による虐待によりまして死亡するという痛ましい事件が起きました。

県では、二度とこのようなことを繰り返してはならないという決意のもと、検証委員会を立ち上げて、そこで提言された項目については全て実施をしていくという方針で、現在、取り組んでいるところでございます。

子どもたちは社会にとってかけがえのない存在であり、大切に守り育てていくことが大人の使命であります。虐待のない社会のために、今、私たちができることは何なのか。このフォーラムを通して多くのヒントを得ていただけるものと確信をしております。

結びに、本日ご参集の皆様の今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたしまして、大変簡単措辞ではございますが、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いたします。

和歌山市長 尾花 正啓

皆さん、おはようございます。

本日は、厚生労働省から山本副大臣を始め、県内外から多くの方々をお迎えして、ここ和歌山市で、子どもの虐待防止推進全国フォーラムが開催できましたことを大変ありがたく思います。



ただいま下副知事のご挨拶にありましたように、本市では昨年7月、2歳男児が父親の虐待により死亡するという痛ましい事件が発生しました。生後3カ月当時から虐待が疑われていた児童であったものの、本市として積極的なかわりができていませんでした。二度とこのような痛ましい事件を繰り返さないために、市のこども総合支援センターの体制を強化し、児童虐待の発生予防、早期発見・早期対応を行うとともに、県の児童相談所など関係機関との連携をより緊密にすることで、虐待防止体制の強化に努めているところでございます。

本日のフォーラムを通して、地域で子育て支援に取り組まれている皆様とより一層連携を深め、地域全体で支え合うことで、児童虐待の防止や未来を担う子どもたちが健やかに成長できる環境づくりにつなげていきたいと考えております。

本日のフォーラムのご盛会と皆様方のご健勝、ご活躍を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。